

**平成30年度
政策提言書**



長崎商工会議所青年部

目 次

はじめに

平成 30 年度 地域政策委員会委員長 中村 繁

提言 1 長崎から上場企業を

～スーパーコンピューターを核として

スーパーシティー構想～

提言 2 「華町」再生

～夜の輝き・華やかさをもう一度取り戻すため、

夜のシンボルエリアを丸山に～

提言 3 「活気溢れる街づくり」

長崎の美味しい魚をその場で楽しむことができる

観光市場を作ろう！

おわりに

平成 30 年度 地域政策担当副会長 塚島温子

平成30年度 地域政策委員会 名簿

副 会 長	塚島 温子
委 員 長	中村 繁
副委員長	朝日 俊雅
副委員長	片岡 盟博
副委員長	高濱 有志
副委員長	松山賢二郎
	阿部 康博
	植野 豪太
	江崎 晃史
	檜山 周一
	金澤 友己
	河野 弘光
	久保山健司
	桑宮 美幸
	児島 正吾
	坂上 隆弘
	佐藤昇太郎
	清水 健次
	園田 昌宏
	武田 誠
	徳久 疾風
	長井 大輔
	長瀬 文吾
	中野 貴司
	中村 禎二
	野上 大輔
	野口富士男
	信龍 努
	濱崎清次郎
	福島 卓
	松尾 恭輔
	水野 和美
	満崎 匡士
	本村 一樹
	森 陽介

はじめに

今年1月に総務省が発表した2018年の住民基本台帳人口移動報告で、長崎市は日本人転出超過全国1位の2376人を記録しました。2位の北九州市を702人上回る突出ぶりです。

止まらない人口減少にたち向かうために、改めて長崎県の将来のために、県都・長崎市の魅力を向上し、人口のダム機能を発揮しなければならないと感じました。将来を悲観せず、いま夢を描くことが必要だと。

今年度、長崎商工会議所青年部（以下、長崎Y E G）は、過去の政策提言の具現化と新しい政策提言を行う地域政策委員会を設けました。昨年6月には平成29年度に政策提言を行った「ながさき6月プロジェクト～想い傘なるマチ～」を具現化する「長崎厄入り祭り～あじさい燈籠流し～」を開催。中島川、眼鏡橋、「厄入りの風習」という、長崎に残る自然、歴史、風俗・文化を活用したイベントが、魅力的なコンテンツとして交流人口を生み、且つ生まれ育った長崎の良さを知る「シビック・プライド」の醸成に繋がることを確信しました。

その後、昨年8月に当委員会内で提言の企画コンペを実施。同11月に国内視察を行って、最終的に3つのテーマを決定。今年2月には、長崎商工会議所、および長崎Y E G内でプレ発表を行って案を磨きあげ、政策提言書にまとめました。

3つのテーマに共通して言えることは、県庁舎移転に始まり、交流拠点施設を含む長崎駅周辺開発、九州新幹線・西九州ルート開通、幸町スタジアム、新市庁舎の建設と、今後5年間で大きく変化する長崎市中心部をさらに魅力あるものにするための種を蒔きたいという想いです。

今年度の政策提言は、具現化にも取り組む長崎Y E Gの基本精神は維持しつつも、自由な発想で将来を語りたいと思います。「こんな長崎を作りたい」「だからこれをする」「できないかもしれないけどチャレンジする」。突拍子もないと感じるアイディアもあると思いますが、皆様の心に1つでも響くものがあればと思っています。

一人でも多く本書をご覧いただき、ご意見・ご感想、具現化に向けたご相談などを頂戴できれば幸いです。そして、この政策提言書の取りまとめにあたり、ご支援・協力を頂戴したすべての皆様に感謝し、厚く御礼申し上げます。

平成30年度 地域政策委員会
委員長 中村 繁

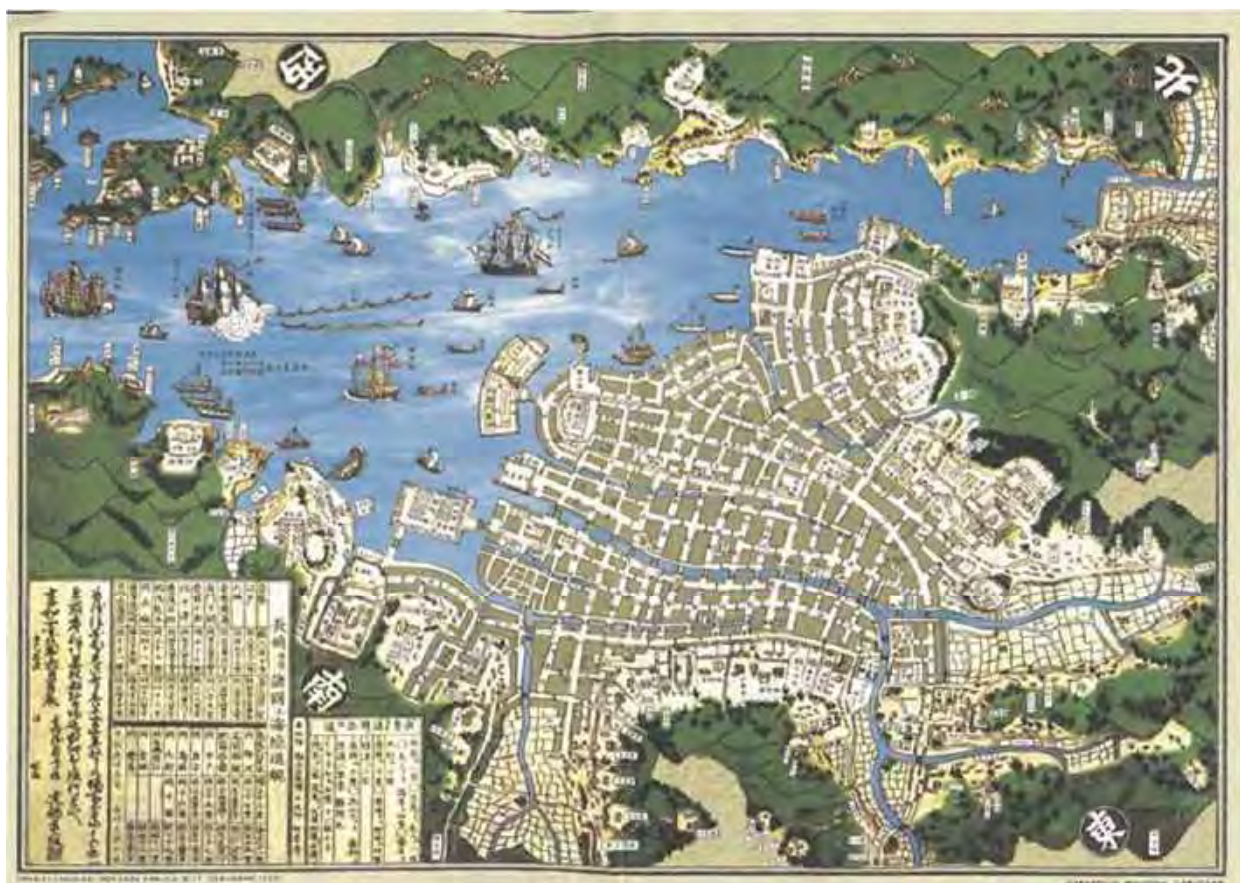
長崎から上場企業を

～スーパーコンピューターを核としたスーパーシティ構想～

1. 提言のねらい

長崎経済を活性化し、定住人口を増加させる、ことが本提言のねらいです。

長崎から上場企業を経常的に生み出し、優良な雇用の場を創出することで定住人口を増加させる。そのための施策として長崎市が、国家戦略特区を活用し、経済活性化を行う。経済が活性化することで、定住人口が増加するという、仕組みを構築することが求められています。



2. 提言の背景

長崎は、1571 年の開港以来、国際貿易港として栄え、鎖国時代には諸外国へ向けた日本唯一の港として日本経済の要となっていました。長崎の経済は国際貿易により活況に満ち、全国から多くの商人が集まり、16 世紀から 20 世紀までの日本経済を支えてきました。明治時代の長崎は、貿易だけでなく、産業革命の基盤となる、エネルギー資源の採掘拠点として、時代をリードしてきました。その結果、16 世紀初頭には、寒村であった長崎は、16 世紀後半には多くの人が定住し、経済が活性化し、町が大きく発展してきました。

しかし、エネルギー資源が石炭から石油に代わり、海上貨物から航空貨物、戦後の食糧難の時代にその解決方法として着目され大きく発展した以西底引き網業による魚を中心とした食生活から食肉への生活様式の変化により、長崎の基幹産業は、その時代的役割を終え、いま、新産業の誕生が待ち望まれています。

東京証券取引所の平成 31 年 3 月 1 日現在の上場会社数は、3,654 社です。そのうち、長崎の会社は 1 社のみです。その 1 社も、平成 31 年 3 月 27 日には上場廃止となり、長崎県は上場企業のない、全国で唯一の県になります。この状況に際し、青年経済人として非常に強い危機感を抱いています。

経済活動の停滞・衰退がもたらすもの。それが、人口流出です。総務省が昨年 1 年間の日本人の人口の動きを調べた結果、長崎市は、転出者が転入者を 2,376 人上回り、全国の市町村でもっとも転出超過の市となりました。2 位の北九州市と比べても、702 人多いです。この状況をしっかり受け止め、それに対する対策をしっかり検討する時です。

16 世紀以降、常に時代の最先端であり続けたことにより、長崎経済は栄えてきました。21 世紀の世界の中で、長崎の魅力を輝かせる施策は何か。われわれはそれを探し求め、様々な調査を行いました。そこで、長崎経済を活性化し、定住人口を増加させる施策として、長崎市が、未来都市ながさきのため、国家戦略特区の制度を活用し、スーパーコンピューターを核としたスーパーシティ構想 Society5.0 社会を世界で最も早く実現する都市となるべく、様々な規制緩和を行うことを提言します。



日本人の転出超過数の上位 10 自治体		
1	長崎市	2,376
2	北九州市	1,674
3	那覇市	1,636
4	堺市	1,522
5	神戸市	1,520

全国市区町村所得ランキング		
1 位	東京都港区	11,150,755 円
141 位	福岡市	3,455,926 円
211 位	長与町	3,305,204 円
323 位	熊本市	3,159,106 円
354 位	沖縄市	3,118,259 円
391 位	大分市	3,081,691 円
466 位	佐賀市	3,022,255 円
467 位	鹿児島市	3,021,010 円
577 位	長崎市	2,924,073 円
578 位	宮崎市	2,923,938 円

※全国 1,741 市区町村の所得・年収データ

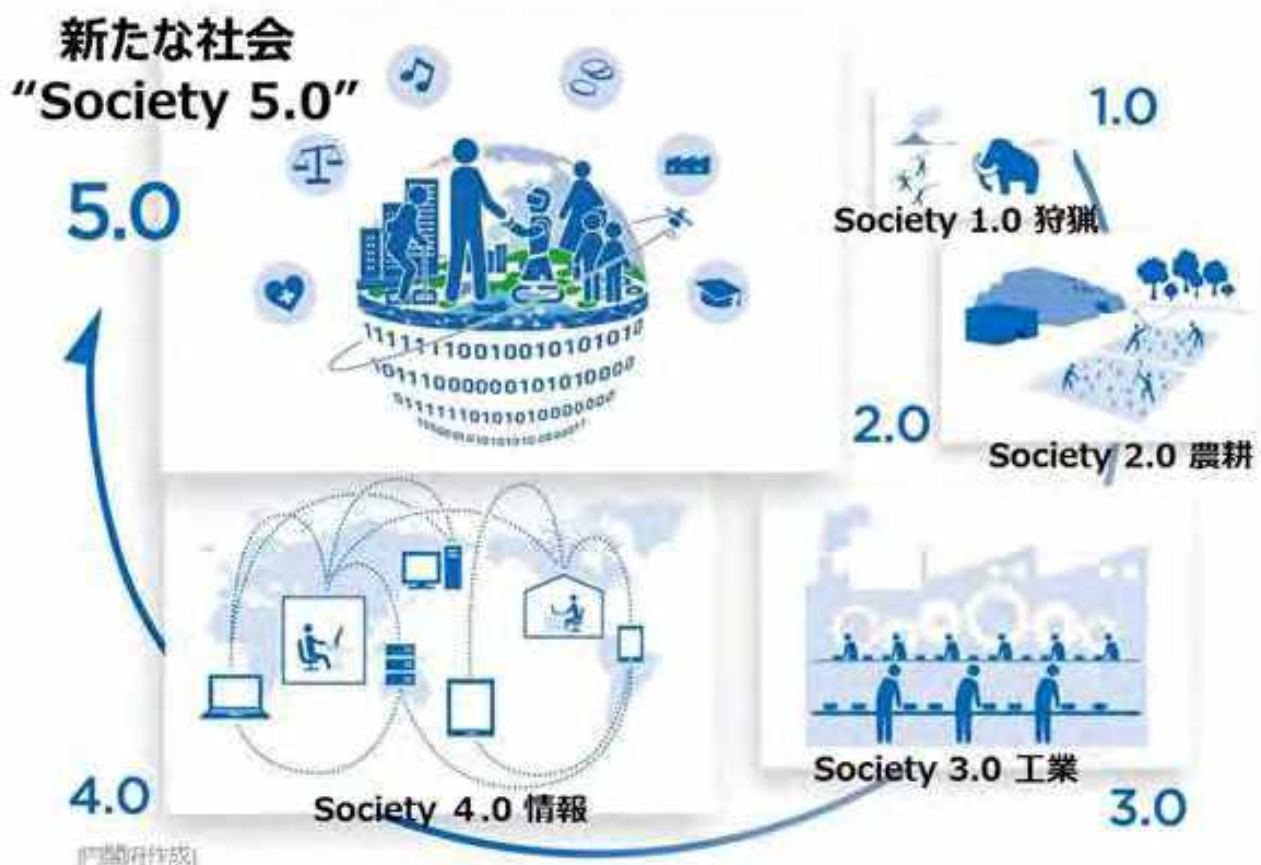
2017 年総務省発表の資料より全国 1,741 市区町村別の課税対象所得の総額を納税者数で除算した額を平均所得と規定し、平均所得(年収)を算出しました。

3. 国家戦略特区の制度を活用し、未来都市ながさき、Society5.0 社会の実現に向けて

長崎は、政府が進める、スーパーシティ構想 Society5.0 社会の実現に最適な場所です。現在、政府が推進しているスーパーシティ構想。AI 及びビッグデータを活用し、社会の在り方を根本から変えるような都市設計。第四次産業革命を先行的に体現し、革新的な暮らしやすさを実現する最先端都市となること、それがスーパーシティ構想です。

スーパーシティは、最先端技術を活用し、第四次産業革命後に、国民が住みたいと思う、より良い未来社会を包括的に先行実現するショーケース を目指す取り組みです。この実現のためには、コンパクトシティで社会的課題が山積している都市が適しています。大都市で未来都市を先行実現することは、困難です。地理的にも三方を山に囲まれ、一方が海に面している都市。離島を抱え、人口減少に加え社会的人口流出の課題も抱え、上場企業がないほどの地域経済力の低下、離島や山間部における地域医療体制の構築、通信や交通などの地域インフラ体制に大きな社会的課題を抱えている長崎だからこそ、先行実現する地区として最適です。長崎で、世界に先駆けてスーパーシティ構想 Society5.0 社会を実現し、世界にモデルを示し、未来都市ながさき、を発信するのに絶好の機会です。

次に個別に、政府が提唱しているスーパーシティ構想 Society5.0 社会の具体例と長崎での取り組みを検討することにより、本取り組みの最適地が長崎であることを確認していきます。



4. スーパーシティ構想・Society5.0 の具体例

(1). ドローン

ドローンは、モノの運搬、測量、災害救助までその応用範囲は広がっています。

長崎市は有人離島を有しています。そこで、ドローンを活用したサービスを先駆的に実証できます。神の島・女神・小ヶ倉等の物流拠点から、伊王島・高島・池島への輸送をドローンで行う。海上を航行することから、実証段階での墜落等による危険性の軽減が図られ、安全性の確保、信頼性の確立がなされるまで、実証を繰り返すことができます。また、坂の街長崎の特性を生かし、神の島から稲佐山等、立体的な輸送の実証も可能です。長崎の有する地形的な特性を生かし、その実証を行う場とする。そのことで、関連技術者や企業が集積してきます。

軍艦島が、台風被害により上陸できない時期がありました。ドローンを活用することで、上陸することなく、被害状況を確認できます。ドローンを活用したインフラ関係の保守等については、長崎大学のインフラ長寿命化センターが先進的な研究をしています。灯台の点検や、電波塔の点検等、通常点検が困難な場所でも、ドローンを活用すれば、定期的な点検が容易となります。ドローンを活用し、危険地域の状況をいち早く認識することで、修繕箇所が早期に発見できます。そこに対する修繕計画も立てやすくなり、迅速な対応が可能になります。

388 ドローン

空飛ぶマシンが アナタの町にもやってくる

モノの運搬、測量、災害救助まで、世界中で実用化が進みつつあるドローン。野を越え、山を越え、みんなの想いや希望を乗せてやがてアナタの住む町にも。

ドローン宅配【くらすぽはたらく】



昨年10月の台風25号の被害で壊滅した結島の見学用施設—長崎市。編集《長崎市経済》



(2). AI 家電

人工知能「AI」を搭載した家電が、日本だけでなく世界中で開発・販売されています。

旬の食材を使ったメニューや、冷蔵庫にあるものでできるレシピの提案。食材のストック管理を冷蔵庫自身がしてくれるので“もったいない”を減らすこともできます。外出先からストックを確認すれば、効率的な買い物ができます。

AI スピーカーに話しかければ、その音声で、家中のさまざまな家電を操作できるようになるのです。あらかじめ設定しておけば、天候や時間に応じた音楽をかけてくれたりカーテンを開け閉めしてくれたり日々の生活がぐっと便利になります。

長崎市は、富士フィルムホールディングス、京セラコミュニケーションシステムの進出や情報産業クラスターの形成により、AI・ICT 開発拠点へと大きく進化を遂げています。また、長崎県立大学シーボルト校及び長崎大学情報系新学部設置により、この分野における産学連携事業を推進できる体制も整っています。こうした状況をさらに一步、強力に推し進めてはいかがでしょうか。



02 SCENE

AI HOME APPLIANCES



AI家電

考える家電が 日々の暮らしを快適に

人工知能「AI」を搭載した家電が、日本だけでなく世界中で開発・販売されています。家電同士がつながることで「便利」が加速していく—あなたの暮らしを、AIがサポートします。

AI冷蔵庫【くらす】>>

AIスピーカー【くらす】>>



国立大学法人
長崎大学
NAGASAKI UNIVERSITY

ロボット・IoT関連産業育成事業

①国内ロボット・IoT関連業の分野において、**高度専門人材の育成**及び「ブレイカー企業」の誘致と**海外サービス拠点**との間でマッチング等により、先端技術の活用を促進するとともに、事業拡大や新たなサービスの創出等に資する。国外需要の獲得と生産性の向上、付加価値の向上を図る。

長崎県立大学

- 長崎大学工学部、ノビエ研究センター、国際機関
- AI（人工知能）等の先端技術を応用した革新的サービスの創出を図るため、長崎大学と連携し、AI・ビッグデータ分析、IoTシステム構築、ビジネスモデル構築に関する学際協働を実施。
- 企業で培ったノウハウや一歩も遅れずロボット、IoT等のシステムインテグレーションを得意とする他、各種プラットフォームなどとも連携し、海外展開のための戦略的提携を実現。
- 海外で培ったノウハウの普及を図り、新たな市場を開拓し、IoTシステムやサービスの海外展開を目指す。関係強化を図る経路に注力と積極的対応。

長崎県立大学

②国内ロボット・IoT関連業の分野において、**高度専門人材の育成**及び「ブレイカー企業」の誘致と**海外サービス拠点**との間でマッチング等により、先端技術の活用を促進するとともに、事業拡大や新たなサービスの創出等に資する。国外需要の獲得と生産性の向上、付加価値の向上を図る。

(3). 医療・介護

高齢化が進むにつれて、ますます大きな課題となる医療・介護問題。ロボットをはじめとした先端テクノロジーが、解決の糸口を見出だしてくれます。

タブレットや専用端末があれば、毎回病院に行かなくても、お医者さんの診療を受けられる。かかりつけ医の先生による通院・対面での診療と、オンラインで診てもらうことをうまく組み合わせれば、質の高い診療を受けながら、通院回数は減って交通費も節約できる。離島から長崎までの移動が大変なご年配の方にとっても、うれしいサービスです。

足が悪くて通院が難しい方には、お医者さんが自宅まで赴く「往診」が、唯一の受診方法でした。遠隔診療が普及すれば、移動の手間なく診察でき、往診回数も減らせます。電子カルテを用いれば、医師同士で医療情報を共有し、これまで以上に適切な診療ができるようになります。お医者さんと患者さん、双方の負担を減らせる画期的な取り組みです。

長崎では、すでにあじさいネットや長崎在宅 Dr. ネットが機能しています。電子カルテを用いた病院間での情報連携は、長崎は全国で先駆けて先進的な取り組みを行っています。この取り組みを、さらに推し進め、離島や交通アクセスの不便地に住んでいる方に積極的に活用していただくようにする。その取り組みが、新たな医療サービスの提供につながります。

 **医療・介護**

**介護する人・される人を助ける
疲れ知らずの助っ人が登場**

高齢化が進むにつれて、ますます大きな課題となる医療・介護問題。ロボットをはじめとした先端テクノロジーが、解決の糸口を見出だしてくれました。

遠隔診療 【くらす／はたらく】 >>

介護ロボット 【くらす／はたらく】 >>

見守りサービス 【くらす／はたらく】 >>



診療所・クリニック

かかりつけ医は、拠点病院で受けた患者さんの検査結果などを参照し、病状・病歴をより正確に把握。



参照

同意書を取得した
患者さまのカルテのみ
参照可



情報共有

薬局

患者さんの症状に合った
的確で細やかな服薬指導。

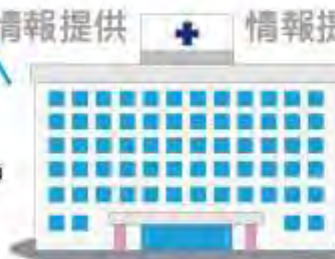


参照



【情報提供内容】

- ・画像情報 (MRI、CT、内視鏡ほか)
- ・検査情報 (検体検査、生理検査)
- ・治療内容 (処方・注射、手術・処置)
- ・診療記録 (医師記録、看護記録、指導内容、サマリー、熱型表、リハビリ情報)



拠点病院

かかりつけ医、薬局などと
タイムリーに情報共有。

※ ご利用できる診療情報は、
病院毎に異なります。



認定NPO法人 長崎在宅Dr.ネット

長崎在宅Dr.ネットは、病気の治療を、自宅または介護施設で受けたいと希望される患者さんの在宅主治医を見つけ、その在宅療養のサポートをする医師のネットワークのことです。

複数の医師や介護・福祉のスタッフと連携をとりながら、病院の治療に引けを取らない最適な在宅療養環境を提供します。



(4). スマートワーク

カーナビなどに利用されている全地球測位システム「GPS」(Global Positioning System)。

日本が整備を進めている準天頂衛星システム「みちびき」によって、GPS の誤差をわずか数 cm 単位まで縮めることができます。無人トラクターに土起こしや種まきを任せられるようになり、棚田や段々畑での作業の効率化や農家の人手不足解消にも一役買ってくれます。アグリで実証し、その結果を長崎の棚田へと展開する。TPP や EPA により、日本の農産物の販路は世界に広がっています。第一次産業を経済の柱に育てていく。長崎経済の大きな一翼を担う産業に育てる。そういった視点を持てるようになります。

篤農家(とくのうか)が長い年月をかけて培ってきた、地域に根差した知識や経験。それらを失うことなくデータ化し、次の世代に承継できます。タブレットやスマホを片手に、過去の栽培・収穫データに基づく栽培管理から、市況や消費者と直結した出荷準備まで、農業の世界が広がります。

農業分野だけでなく、水産分野へもスマートワークの展開が可能です。長崎大学では、赤潮調査ロボット AKABOT が開発されています。ドローン技術により、特定海域の海水を摂水すること、また、摂水装置先端のカメラで海面の状況をリアルタイム画像で把握することができます。これらの技術を活用することで、効率的に漁業が行えるようになり、新規創業を含む魅力ある漁業を創出することができます。

このように長崎は、農業だけでなく漁業の分野においてもスマートワークの応用・実証が可能です。



スマートワーク

**ロボットの活躍の場が
ひろがり、**

ハードな仕事もなんのその！

天候に左右されたり、危険だったり。働く人にとって厳しい仕事環境でも、淡々と仕事をこなしてくれるクールで頼もしい相棒がいるんです。

無人トラクター [はたらく]



清掃ロボット [はたらく]



ICT栽培 [はたらく]



くらす

はたらく

はたらく
が変わる

農家の知識と経験を未来につなげる！？

篤農家が長い年月をかけて培ってきた、地域に根ざした知識や経験。それらを失うことなくデータ化し、次の世代に継承できます。タブレットやスマホを片手に、過去の栽培・収穫データに基づく栽培管理から、市況や消費者と直結した出荷作業まで、農業の世界が広がります。新しい農業に新規参入も。



ICT 栽培

“ロボット”の活躍の場がひろがり、ハードな仕事もなんのその！



たかしま農園
TAKASHIMA FARM



国立大学法人
長崎大学
NAGASAKI UNIVERSITY

海洋未来イノベーション機構
海洋エネルギー利用研究部門
メカトロニクス分野

赤潮調査飛行ロボット AKABOT



第3回沖縄海洋コンペティション優秀賞受賞

飛行探水機能試験

遠隔飛行および

探水試験

実海域での

海水サンプリング試験

特徴

- ・重量6.4kg
- ・速度7m/sで2km飛行可能
- ・コンピュータ制御にて探水装置を5m降下(ホバーリング飛行)
- ・海水サンプリング機能搭載(探水後は海水をロボットに収納し帰還)
- ・ロボットおよび探水装置先端にカメラを搭載(海面の状況をリアルタイム撮影可能)



(5). スマート経営

ここ最近で急速に普及したクラウドは、利用者と企業、どちらにとっても嬉しいサービス。設備投資にかかる費用が少なく、中小企業や個人商店でも手軽に導入できます。

近所の個人商店に会計クラウドが導入されれば、Web での注文や決済がスムーズになります。AI スピーカーなどの AI 家電と連携することで新たなサービスが生み出されます。

旅館のシステムにクラウドが導入されると、利用者の使い勝手も大幅にアップします。Web での予約がスムーズになったり、ルームキーの代わりに顔認証で入室できたり、日本語の苦手な外国人観光客にとって大きなプラスになります。長崎を訪れる人がより快適になり、長崎の交流事業がますます盛んになります。

長崎では、買い物の支払いに現金ではなくスマートフォンを使って決済する仕組みを、長崎市浜町を中心とした商店街の約 250 店舗が 2019 年 2 月1日から導入しました。13 の商店街で構成される長崎市中心地区商店街連合会の事業で、キャッシュレス化が進む海外からの観光客らの利便性向上をはかる目的です。

「キャッシュレス決済は日本でもこれから対応が不可欠になる。便利で手軽な買い物を目指して考えた事業」（長崎市中心地区商店街連合会 本田時夫会長）

このように、すでに長崎ではスマート経営は、始まっています。これを一歩進め、AI 家電と連携するスマート経営の実現に向けた取り組みを、国家戦略特区の中で、大胆な規制緩和を行うことで実現させてはいかがでしょうか。



(6). 自動走行

過疎地で深刻な問題となっている、公共交通機関の廃線による移動の不自由。高齢者が自分で運転せざるを得ない状況になり、事故の増加が社会問題にもなっています。自動走行バスが導入されれば、時間帯を問わず目的地まで行けるようになります。現在コミュニティバスを運行している地区で実証してはいかがでしょうか。また、コミュニティバスの要望が寄せられている地区で、先駆的に行うことも有効かもしれません。

船に自動運航システムが導入されれば、離島からの移動が格段に便利になります。利便性の悪さから敬遠されていた離島へのアクセスが改善することで、離島における定住人口の増加も期待されます。

長崎は路面電車が象徴的な街です。路面電車は軌道がすでに設置されています。現在運休している深夜・早朝の時間帯に自動運行システムにより電車が稼働することで、長崎の夜の街を楽しむことができます。長崎に来ていただいた観光客が、時間を気にすることなく、夜の長崎を楽しむことにより、深夜の時間帯の経済効果の増加につながります。



自動走行

物流・交通シーンに

見えないヒーロー あらわる

映画やマンガでもたくさん描かれてきた無人走行は、まさしく未来を象徴するテクノロジー。まずは公共交通機関や運送業から、そして一般家庭へと広がっていくでしょう。

自動走行バス (くらす/はたらく) >>

隊列トラック (はたらく) >>



・「自動運航船」は、船上の高度なセンサーや情報処理機能、セキュリティの確保された衛星通信、陸上からの遠隔サポート機能等を備えた船舶とその運航システム



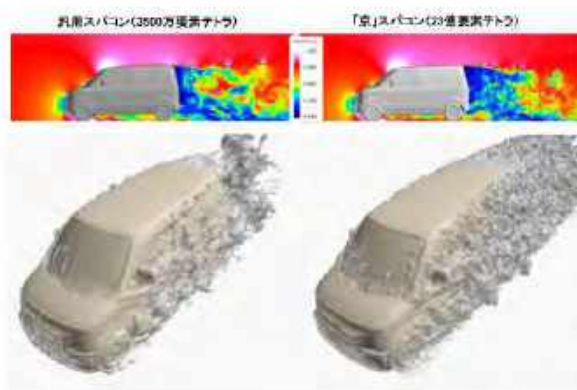
5. 最先端都市としてスーパーコンピューターを長崎中央エリアに設置

スーパーシティ構想 Society 5.0 社会の実現は、長崎が、日本の中で最適地です。今まで説明してきたように、多くの分野ですでに、長崎では実現しています。これを統合して、さらに一歩進める作業が必要です。スーパーシティ構想 Society 5.0 社会をより早く進めるため、AI・ICT 等の活用は欠かせません。新しい産業による、強い地域経済を創出する。国家戦略特区の中で、さまざまな施策を統合的、効果的に実施する。これらをより有機的につなぎ合わせ、有効的に機能させるために、長崎中央エリアにスーパーコンピューターを配置して、産業用として、広く開放する。スーパーコンピューターを設置することで、イノベーションを加速させ、経済成長の速度を上げることができます。



スーパーコンピューターの定義は時代に沿って大きく変化してきているが、一般的にはその時代の最新技術が投入された最高クラスの性能の計算機を指します。スーパーコンピューターは、高度な演算を必要とする計算処理に使用され、その計算処理には量子力学、天気予報、気象研究、計算化学(構造体、化合物、生物学上の高分子、ポリマー、結晶などの性質の計算)、物理的なシミュレーション(航空機の風洞シミュレーション、波風の船舶への影響のシミュレーション)などがあります。

スーパーコンピューターを配置することで、実際に得られたデータをもとに様々な解析、シミュレーションを行うことで、いち早く不具合への対応が可能となります。



現在スーパーコンピューターは全国に設置されていますが、そのほとんどは大学です。東京大学をはじめ、東北大学、筑波大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学など、震災の影響を受けやすい地区に多くあります。九州では、九州大学に設置されています。大学以外でもっとも有名なのが、国立研究開発法人理化学研究所が有する「京」です。こちら、神戸に設置されており、震災のリスクは高いといえます。そこで、長崎に配置する意義があります。日本全体の自然災害に対するリスク分散の観点からも、長崎にスーパーコンピューターを配置する理由は十分あります。



スーパーコンピューターの設置に関しては、神戸の例に習いたいと思います。神戸では、公益財団法人計算科学振興財団が、スーパーコンピューターを設置、運用しています。スーパーコンピューターに関する費用は、民間にスーパーコンピューターを貸し出すことで生み出す収益により賄っています。また、拡張についても、必要に応じて、必要な部分を追加しています。この方式であれば、財政負担は生じにくいと考えます。神戸での運用は、スパコンの貸し出し等による収益が約 4 億円程度あります。国・県からの助成金も約 2 億円入っていますが、自立に近い状態で運用されています。



【「FOCUSスパコン」が設置される高度計算科学研究支援センター（1階～2階部分）】

IoT や様々なセンサーから膨大なデータを吸い上げ、それをビッグデータとして蓄積する。クラウド上に溜まったこのビッグデータを有効に活用するために AI で分析する。この分析作業でスーパーコンピューターは大いに活躍します。スーパーコンピューターを長崎中央エリアに配置し、IoT 等からのビッグデータを解析し AI を活用することで物流・自動運行、医療・介護分野、海洋・航空・宇宙産業、農業・漁業等に新たな付加価値を創造する。新たな付加価値を創造し経済活動を活発にする。その経済活動の好循環が、長崎経済を活性化していきます。



活性化された経済の中で一部の企業は上場を目指していくかもしれません。そうやって、自発的に上場まで育つ企業が生まれる素地を作ること。そうすれば、企業はおのずと成長します。企業が成長し、経済活動が活発になることで、優良な雇用の場が創出され、人が集うようになり、定住人口が増加していきます。

誰もが住みたいまちとして長崎が注目を浴びるでしょう。『夢がある街ながさき、夢が叶う街ながさき、ワクワク・ドキドキ・楽しい街ながさき』を実現させるその一歩。それが、スーパーシティ構想 Society 5.0 社会の実現です。

	IoT	BigData	AI	
対象領域	1: データを上げる	2: データをためる	3: データを分析する	4: データを活かす
現場改善	センシング (センサー、ゲートウェイ等)	蓄積 (クラウド等)	分析 (分析アプリ、AI等)	新たな付加価値
業務改善 プロセス改善	OA化 (手作業からITに置き換え)	蓄積 (仕組み化)	分析 (分析アプリ、AI等)	新たな付加価値
製造 プロセス最適化	技能の形式知化 加工条件等のセンシング	蓄積 (クラウド等)	分析 (分析アプリ、AI等)	新たな付加価値

AI・分析・新たな付加価値創出のために

スーパーコンピューター
を長崎中央エリアに

6. 最後に

日本最初の商社といわれる亀山社中が結成された長崎。幕末の志士が駆け抜け、明日の日本を創生するため、坂本龍馬を中心に、ここ長崎に結成されました。トーマス・ブレイク・グラバーは、グラバー商会を設立し、貿易業を中心に大いに社業を発展させ、大浦海岸において蒸気機関車(アイアン・デューク号)を走らせ、大規模な製茶工場を建設、高島炭鉱開発に着手、さらに、長崎の小菅に船工場(史跡)を造り、グラバー商会がなくなった後、麒麟麦酒(現・キリンホールディングス)の基礎を築きました。長崎経済は、時代の先駆けとして、16世紀以降日本の経済をけん引し、時代の先駆けとなってきました。

時代の最先端として都市の魅力を取り戻し、活気あふれる街にすること。新たな時代に向け、様々なチャレンジのできる街にすること。現在の法体系の規制の中では、実証することが難しいことを緩和すること。ドローン利用に対する空中利用制限の緩和や、海上利用制限の緩和。通信インフラに対する規制緩和等。国家戦略特区制度を活用し、そういったさまざまな規制を緩和することで、新しい街づくりを進める。スーパーシティ構想 Society5.0 社会の実現に向け、様々な研究開発を加速度的に促進するために、長崎中央エリアにスーパーコンピューターを配置して、『未来都市ながさき』を実現する。『夢がある街ながさき、夢が叶う街ながさき、ワクワク・ドキドキ・楽しい街ながさき』という、かつての長崎らしさを取り戻す。その結果、様々な企業が長崎に集い、長崎から誕生していきます。そのうちの一部分が、上場企業となり、世界に羽ばたく企業になるでしょう。そのように、スーパーシティ構想 Society5.0 社会の実現は、上場企業を長崎から経常的に生み出し、優良な雇用の場を創出し、定住人口を増加させる施策です。



アメリカのシリコンバレーのように、最先端の技術集団の集う街に長崎を変貌させることができます。シリコンバレーから Google、Facebook、アップル、インテル等が多数生まれているように、長崎もスーパーシティ構想 Society5.0 社会を世界に先駆け実現することで、この分野での最先端地になる。そして



様々な企業が集積し、新たな企業が生み出されることにより、優良な雇用の場を創出し、定住人口を増加させる。地理的に日本の一番西の端ですが、世界地図を見渡せば、日本からアジアへのゲートウェイの場所です。長崎は、16 世紀以降、江戸・東京を見据えて発展したのではなく、アジア・ヨーロッパを見据えて、交易することにより経済が発展し街が栄えてきました。長崎を中心に置き世界を眺める。長崎の地理的コンパクトさが、スーパーシティ構想 Society5.0 社会の実証には最適です。4 つの産業革命後に現れる、5 つ目の新しい社会。その実現を先駆けることは、長崎の歴史・ストーリーからも必然であるといえるでしょう。

定住人口が増えるから、経済が活性化するのではなく、経済が活性化し、経済拠点となることで人が集積し、定住人口が増加するのです。人を呼び込むためには、経済成長が重要です。かつての長崎がそうであったように、アジアの中心都市としての長崎。世界の中の長崎。これを実現することが、長崎に求められています。

A promotional banner for Society 5.0. The background is a bright blue sky with a woman in a white shirt reaching out her hands towards a white drone flying in the air. The drone is carrying a small white box. In the top left corner, there are social media icons for Twitter, Facebook, and a language selector set to 'English'. In the top right corner, there is a logo for '政府広報' (Government Public Relations). The main title 'Society 5.0' is written in large, bold letters, with 'Society' in black and '5.0' in blue. Below it, the Japanese characters 'ソサエティ' are written in black. To the left of the woman, the text reads: 'それは、いつもの毎日にやってくる、半歩先の未来。' (That is, it comes to our everyday lives, the future half a step ahead). To the right of the drone, the text reads: '5.0ってなに?' (What is 5.0?). At the bottom right, there is a small box with the text: 'WEB限定ムービー公開中!' (Web-exclusive movie now open!) and 'あなたのところにもこんな未来が!?' (This kind of future is also at your place!?).

「華町」再生

～夜の輝き・華やかさをもう一度取り戻すため、夜のシンボルエリアを丸山に～

【提言のねらい】

本提言のねらいは、端的に言うと、長崎における観光宿泊客の増加と、これによる観光消費の増加です。

【長崎市の現状】

近年、訪日外国人旅行客が増加傾向にありますが、今年は日本でラグビーワールドカップが開催され、2020年には東京オリンピックというビッグイベント開催が控えています。ラグビーワールドカップについては、大会の経済波及効果は全体で4372億円と予測され、訪日外国人客による消費は1057億円と見込まれています。また、東京オリンピックについては、開催後10年後の2030年までの期間で、大会の経済波及効果は32兆円とも試算されています。

さらに、九州新幹線西九州ルートの開業が2022年度に予定され、MICEの開業準備も進められており、地理的に西の端に位置する長崎へのアクセス向上によって、人・経済の交流圏の拡大や、観光客数の増加が期待されています。

このように、まさに今、ここ長崎で、海外から・国内からの観光を伸ばしていくための条件が揃いつつある時期にあり、この好機を逃す手はありません。

ここで、長崎市の観光動向に目を向けると、観光客数は、ここ数年、毎年過去最高を更新しており、順調に増加・拡大しています。しかし、日帰り客と宿泊客のデータを比較すると、日帰り客の伸び率に対して、宿泊客の伸び率は限定的であること等から、宿泊客に関する部分については、まだまだ伸び代があるのではないかと考えられます。

【これまでの取組み】

これまで我々長崎商工会書青年部は、「ながさきひかるプロジェクト」や「稲佐山電波塔ライトアップの常設化」等、夜景に関する提言や取組みを続けてきました。

夜景鑑賞が、長崎における観光の目的の一つとして重要なコンテンツとなっていることは、誰もが認めるところでしょう。

しかし、夜は「観る」だけのものではありません。

夜の観光コンテンツを充実させることは、夜を「体験する」ことを目的とした観光客の滞在時間の増加に繋がると考えられ、これによって、これまでの長崎市や我々の取り組みとの相乗効果も生まれ、観光宿泊客の増加、ひいては観光消費の増加に繋がるのではないのでしょうか。

【ナイトタイム委員会】

以上のような問題意識の中で注目されるのが、昨年の政策提言の場で市長から逆提言として言及のあった「ナイトタイム委員会」です。

ナイトタイム委員会は、簡単に言うと、「ナイトタイムエコノミー」すなわち、日没から日の出までの夜間経済を活性化するために、官民が協働して取り組みを行っていくための仕組みです。ナイトタイムエコノミーを活性化し、街を24時間稼働して夜通しで人を呼び込むことによって、様々なライフスタイルをもっている人々を受け入れ、多様な人々にとって魅力ある、まちづくりを進めていくことが期待されます。

ナイトタイムエコノミーは、インバウンド拡大の一方で、訪日外国人観光客から「日本の夜はつまらない（エンターテインメントが弱い）」との指摘を受けて、近年、注目を集めています。日本ではまだ取り組みがはじまったばかりの分野です。

ここで、海外で実際にナイトタイム委員会を設置して、夜間経済の活性化に成功した代表例として挙げられるのがロンドンです。ロンドンでは、週末（金土）に地下鉄の24時間営業（ナイトチューブ）を行い、バーやクラブ、パブ等の営業の後押しを行うことによって、ナイトタイムエコノミーの拡大に成功しました。ロンドンの夜間市場は、イギリス全体に年間4兆円の経済効果と、125万人の雇用を創出したといわれています。ちなみに、ロンドンでナイトタイムの本格的議論がはじまったきっかけは、2012年に開催されたロンドンオリンピックで、2015年にはイングランドでのラグビーワールドカップ開催を控えていた時期でもあり、今の日本と近い状況にありました。

また、ロンドンでは、著名なタレントで、ナイトクラブのDJ経験も豊富なエイミー・ラム氏という人物が、市長から任命され、ナイト・ツァー（＝夜の皇帝）に就任して、PR活動に従事して広告塔の役割を果たすだけでなく、産業界・行政部局等との調整役として、規制の見直しなどの働きかけを行いました。このポジションは、欧米等の他の都市では多くは「ナイトメイヤー（＝夜の市長）」として設置されており、2016年には世界各国の30近い都市のナイトメイヤーが集まる「ナイトメイヤーサミット」がアムステルダムで開催されています。

【海外での取り組み】

海外の事例を参考にすると、美術館や博物館、映画館等の文化施設の営業時間を深夜まで拡大しつつ、カフェ・バーを併設することによって、お酒を飲みながら展示物を見る等の、昼とは違った文化体験を提供する。長崎駅近くに建設が予定されている新スタジアムで、パブリックビューイングでの観戦等を含めた夜間のスポーツイベントの開催を行う。また、路面電車やバスの週末の運行時間を深夜まで拡大して、観光スポット同士のアクセス向上を図る。等々、海外で行われているものを参考にしつつ、長崎にほぼそのまま導入することができそうな取り組みです。

また、このような取り組みを行うためのナイトタイム委員会については、行政からの担当者と、民間の飲食業界・宿泊業界等の業界関係者や、コンサルタント等の専門家・有識

者を構成員として、委員会を設置し、夜間の治安や騒音等の問題点を洗い出したり、民間の意見を吸い上げたりしたうえで、官民一体となって、取り組みを推進していく体制を整えていくべきでしょう。民間の部分については、我々長崎商工会書青年部にも関連する業界の関係者が多く所属していることから積極的に関わっていきたいと思いますし、観光コンベンション協会さん等、他の関係団体との連携も図っていければと思います。さらに、長崎市でもナイトメイヤーを設置してよいのではないのでしょうか。

ここまでの部分は、海外で行われているものを参考にしつつ、長崎にほぼそのまま導入することができそうな取り組みです。

他方、海外と日本、特に長崎とでは、当然文化や条件の違い等がありますから、ナイトタイムエコノミーへの取り組みにあたっては、「長崎らしい」ナイトタイムエコノミーの創出が必要であると考えられます。

そこで私たちが着目したのが「丸山」です。



【丸山の歴史】

長崎の丸山は、江戸時代、江戸の吉原、京都の島原とともに、日本三大花街の一つと謳われ、栄えていました。日本永代蔵において、井原西鶴が「長崎に丸山と云ふ所なくば、上方の金銭無事に帰宅すべし」と記していることから、当時、丸山がいかに栄えていたか、そして、いかに観光消費が高かったか、が伺われます。鎖国中、長崎は海外に開かれた数少ない窓口の一つとして、諸外国との貿易が行われており、丸山は、オランダ人や中国人も訪れる国際的な花街でした。また、丸山は、長崎の人々だけでなく博多や上方などの商人、さらには多くの文人墨客等の文化人が訪れる社交場でもありました。

当時の丸山は、国内外の多くの人々や文化が交流する日本有数の町だったのです。

「長崎の夜」をイメージしたときに誰もが思い浮かべる、夜を象徴するエリア。

かつての「丸山」は、人々にとってそのような存在だったのではないのでしょうか。

しかし、現在の夜の丸山は、閑散として寂しい印象です。また、丸山もそうですが、長崎の夜の街について、一昔前よりも人が少なくなった・寂しくなった、という言葉は、諸先輩方からもよく聞かれるところです。

そこで、丸山で、現代のニーズに即した形でまちづくりを行い、夜の輝き・華やかさ取り戻して、未来に繋がる「華町」を再生させてはどうでしょうか。

先ほど説明したような江戸時代からの長い歴史があり、料亭や検番所、中の茶屋等の、伝統的な資源も残っていることから、和の歴史と文化を体感する空間として、丸山は最適のエリアです。また、地理的に、飲食店が集まる思案橋エリアの奥手にあることから、丸山エリアが栄えて、人を呼び込むことによって、長崎の夜のまちに「奥行き」が生まれるのではないのでしょうか。



【「華町」再生のためのまちづくり】

この華町再生のためのまちづくりについてですが、まず、周辺エリアにおいて、石畳道路を整備して、街灯等で和の雰囲気を出すライトアップを行いつつ、検番等の伝統的な建物内部からの光の演出も行い、夜にまち歩きをして、歴史情緒を感じられるような夜間景観の整備を行います。

人々が安心してまち歩きができるように、夜間の車両の通行規制を行って、歩行者天国にしてはどうでしょうか。また、夜の雰囲気の中で、歴史を感じるためには、夜間に「長崎さるく」のような観光案内を行うことも需要があるかと思われ、訪日外国人をターゲットにするためには、通訳の拡充も必要となるでしょう。さらに、人力車による観光案内も喜ばれるのではないのでしょうか。

海外を含む県外からの観光客が安心して、町を訪れることができるようにするためには、観光案内所やネットでの情報発信等が必要となるでしょうし、認証システムを導入して、一定の基準を満たす安心・安全な店を保証することによって店に入りやすくするためのも工夫も必要かと思われます。

さらに、このエリアの空き店舗や空地について、不動産を活用して、伝統的・歴史的な町並みの景観向上を目的として、集客のための店舗等を新規に開設したり、既存のものを増設する事業に対する補助金制度の創設を行うことも必要かと思われます。町屋風のバーやカフェ等の飲食店、あるいは、長崎の特産品・和菓子・和の小物に関する小売店等の出店を促すために、その費用の一部を補助することによって事業者の後押しを行ってはどうでしょうか。

また、現在、丸山エリアは、風営法に関する条例による規制において時間延長許可地域外にあることから、許可地域を拡大することも検討が必要となりますし、営業時間や業種に関する規制緩和についても検討の余地があるでしょう。

定期的に各種イベントを行うことによって、多くの人々を呼び込む仕掛けづくりを行うことも必要となるでしょう。2001年から開催されている「丸山華まつり」は、花魁道中や女御輿が行われており、まさに丸山の歴史にスポットをあてたイベントです。

【和の歴史と文化を体感・体験する町】

以上のような、まちづくりのベースを整えつつ、その上乘せとなるコンテンツを充実させ、結果として、和の歴史と文化を「体感・体験する」ことができることができる空間の創出を目指したいと思います。

例えば、これは京都で行われている取り組みの一つですが、着物を着たまち歩きを促すために、文化施設や観光施設、飲食店での料金割引等の特典を設けて、まちに着物姿の人々を増やすような取り組みを行ってもよいのではないのでしょうか。実際に着物を着ている人はもちろんですが、これを目にする人も楽しむことができ、まちの風情も向上すると考えられます。ちなみに、三大花街と言われた時代、「江戸のきっぷ（気風）に京都の器量、長崎の衣裳で三拍子揃う」と言われたほど、丸山は着物の華やかさで有名でした。

また、歴史ある老舗料亭において、伝統的な卓袱料理を楽しむことは、長崎の歴史と文化を感じることができるものの代表でしょう。

さらに、検番の舞が、多くの観光客に喜ばれることは、去年の厄入り祭りで私たちが強く実感したところですが、例えば、丸山公園や中の茶屋等で、検番の舞を披露する場を増やしてもよいのではないのでしょうか。厄入り祭りでは、「お茶」や「生け花」等の和の体

験ブースも好評でしたし、このようなコンテンツを提供する場があってもよいでしょう。

これらが加わることにより、和の歴史と文化を「五感で楽しむ」ことができる空間が生まれ、国内外の多くの観光客を惹きつける、「長崎ならではの」コンテンツを提供できるのではないのでしょうか。



【まとめ】

最後になりますが、ここまでお話してきた内容は、行政だけでも民間だけでも達成することは困難でしょう。長崎市と我々商工会議所青年部を含めた官民が力を合わせ、ナイトタイム委員会のもとで、「華町」再生プロジェクトが成功し、長崎の夜がもっと華やかに・もっと元気になることを願って、本提言の結びとしたいと思います。

以上

「活気溢れる街づくり」

長崎の美味しい魚をその場で楽しむことができる
観光市場を作ろう！

○本提言の2つの目的

- 長崎の誇る「おいしい魚」を観光資源として有効に活用し、長崎のブランド力を高めていく。
- 街に活気を醸成する。

長崎人なら一度は、悔しく思ったことはあると思います。水産国日本の中でも長崎は代表的な水産県。なのに、それに価する評価を得ていると思いますか？ 私には到底そうは思えません。県外に出たことがある人はわかっていると思いますが、長崎の魚はとにかく安くてうまい。県外では、長崎ブランドで高く売られている魚も、ここ長崎に来れば安く食べられる。高級魚のクエなどはその代表例です。それをもっと知ってほしい。長崎内外の人にPRしたい。そう思ったことのある人はたくさんいるはず。長崎の魚は、日本中世界中に誇れる宝です。今こそ、その悔しさを、積年の恨みを晴らしましょう！

そこで私たちが提言するのは、今までにない「観光市場の創出」です。

○街に活気をもたらすのは「市場」

先ごろ、長崎市が行った市民アンケートによれば、長崎市民は今この街に一番「活気」を求めているそうです。私の思うに「市場」は、街の「活気」の象徴たりえる存在です。スタジアム構想も素晴らしい。交流拠点も、駅前の活性化も必要なことです。しかし、「市場の活性化」こそが、今長崎市民に必要なこと、喫緊の課題だといえるかもしれません。

また我々青年部でも、実験的に観光市場に取り組めないかと試行錯誤し、昨年度実施したのが、築町市場のご協力を得て行った、「土曜日市場丼」のイベントでした。300人を超える集客があり、一定の成果を得たものと思います。

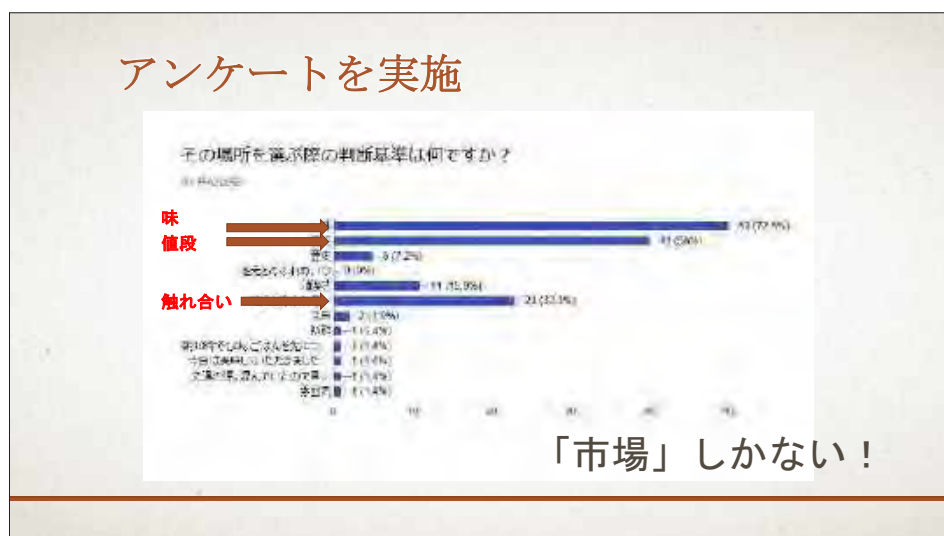


その最中、我々はアンケートを実施しました。

「旅行先で、地元の美味しい海産物を楽しむなら、どんな場所がいいですか？」との問いに、ダントツに多かった答えが、「地元の市場」(62.7%)でした。



また、その場所を選ぶ判断基準として、「味」(72.5%)「値段」(58%)の次には、「地元とのふれあい」(33.3%)という結果もあります。



長崎の海産物を味わう観光拠点として、「市場」が最も適しているのは、言を俟たないのです。

そこで我々はまず、先進事例を学ぶべく、大阪の黒門市場を視察してきました。大阪市のまさに中心に位置する、歴史ある市場です。



朝 10 時に伺ったのですが、すでに大勢の観光客で溢れかえっていました。しかも、高額の商品から飛ぶように消費されていく様に、まさに圧倒されました。私は、これこそが街の活気だと痛感しました。



しかしここで、「それが本当に市場のあるべき姿なのか？」との疑問が私の胸をよぎりました。実は、黒門市場を視察する前も、当該市場についてネガティブな評価が耳に入っていました。「あそこは観光客ばかりで、市民の市場ではなくなった」との声です。

行ってみるとたしかにその通りでした。ほとんどがアジア系の外国人観光客で、地元の買い物客の姿は全くと言っていいほど目につきませんでした。これは、本当に我々長崎市民が求めている市場の姿なのだろうか……

外国人観光客が押し寄せて、高価な海産物を楽しむ市場も良いけれど、長崎の市場は、県外では高い魚も手軽に食べられるのをウリにしたらどうでしょうか。そうでなければ、長崎市民が気軽にお買い物にはいけない市場になってしまいます。

我々が目指すべき長崎の市場は、市民の為の市場でありながら、観光客も、長崎市民も、どちらも楽しめる市場。誰もが、行きたい、と思わせる市場を作りたい！そうした想いで、本提言を展開していきます。

○市場の概念を変えていきましょう！

なんでも揃う大型スーパーの出現以来、市場は、「市民の日常的な買い物の場」ではなくなってきています。市場で育った世代としては、とてもさみしいことですが、もし市場が、「市民の日常的な買い物の場」でなくなったのであれば、市場は、「非日常的な買い物の場」を目指せば良いのではないのでしょうか。日常的な買い物では楽しめない魅力を創出することで、人を集める。それによって市場の「新たな発展」を目指しましょう。



そこで私たちが提案するのが、
「魚介類のエンターテインメント施設、
食のテーマパーク」です。



○テーマは、「非日常的買い物体験」

私思うに、長崎に足りないもの、それはエンターテインメントの文化です。平和の発信も重要ですが、私はもっと他にも、市民が、ワクワクするような、楽しい、と思うようなもの、観光客が、長崎に行ったら楽しそうだな、と思わせるようなものが必要だと感じています。

そこで私が提言したいのが、この「魚介類エンターテインメント」です。

エンターテインメントに必要なのは、「非日常性」、「非日常的体験」です。滅多にできないこと、してみたいなー、と思っているようなことは、みんな何かしらあると思います。長崎にすれば、そこに行けば、それが体験できる。そんな施設があったらいいと思いませんか。それを実現させる、「食（魚介類）のテーマパーク」を長崎に創るのです。

例えば、長崎の魚種の多さを活かして、「生け簀水族館」を作ってみてはどうでしょう。

水族館の水槽の魚が、全部食べられる、と思ったら、テンションが上がりませんか？さらにその一部を利用して、アトラクションの要素も加えましょう。具体案としては、

魚のつかみ取り体験はどうでしょう。水浸しになって魚を追い回すなんて、滅多にできないことですよね。子供が喜びそうです。

個人的に一度やってみたいなー、と思っているのが、モリ突きです。テレビで見て、憧れている人も多いと思います。お父さんがモリで突いた魚を家族で食べる。そんな旅行が出来たら、テンション上がりませんか？

旅行先でそんな水浸しになるようなことをだれがやるかと思いますが？でも沖縄に行けばスキューバダイビングしますよね？ ならば、長崎に来たらモリ突き、でもいいんじゃないでしょうか。



しかしながらそれらにハードルの高さを感じる人や、水に入れないような寒い時期には、一本釣り体験や投網体験でも楽しそうです。

獲った魚は、その場で調理してもいいし、食べきれない分は干物にして後から発送すれば、とても良いサービスになると思います。たくさん獲って、その場で友人知人に送ったりすれば、PR効果にさらなる広がり期待できます。

その場で調理するにしても、自分でやる方が楽しいと思います。いわゆる体験型のツーリズムです。日本らしく寿司体験はどうでしょう。握り寿司はもちろんですが、これも魚種の多さを活かして、色とりどりのオリジナル押し寿司なんか、インスタ映えもして楽しいでしょう。

楽しそうなアイディアはどんどん膨らみますが、要するに、魚介類を通じてみんながやりたいな、と思っていることを実現させて楽しませる、エンターテイメント施設です。

日本の食といえば新鮮な魚介類。その魚介類の、食のテーマパーク。日本を代表するような、食のエンターテイメント施設が長崎にあったら、素晴らしいと思いませんか。いや、魚種の多さ、漁獲量、どれをとっても、長崎以上にふさわしい場所はないとさえ思います。



非日常的買い物体験

食のエンターテイメント施設

魚介類のテーマパーク！

魚介類エンターテイメント



設置場所については、今までも様々な候補が検討されていると思います。例えば、元船町のドラゴンプロムナードを活用する方法や、宝町のガスタンク跡地など。それから、私がここで提案したいのは、築町です。

中心市街地において、「まちなかの賑わいの創出」が重要な課題となっています。特に、江戸町から県庁が移転して以降、江戸町、万才町界隈から、中心市街地の空洞化が顕著となっているように思われます。

真ん中に活気がない街が、市民や観光客にとって魅力的に映るでしょうか？

江戸町に県庁がなくなった今こそ、長崎市民の「活気」の醸成については本気で取り組むべき課題だと思っています。

○効率的な PR

さて、ここで併せて必要になるのが、効果的なアピール、全国への発信です。
今こそ、長崎の魚が日本一、世界一であることを内外にアピールしましょう！
従来通りの広報活動も当然必要ですが、一つ是非やってみたいことがあります。

それは、魚介類―1 グランプリ、略して G―1 の開催です。

この提言をまとめている最中、長崎の魚がおいしい、という話をしていると、多くの方にこう言われました。「どこの県の人も地元の魚が一番おいしいと思っているよね」「でもその中でも、長崎はやっぱり美味しいよね」

海を抱えているどの街でも、自分のところの魚が一番おいしいと思っているようです。では、勝負をしようではありませんか。どこの魚が一番旨いのか。今こそ長崎の力を見せつけてやろうではありませんか！それぞれの街が自慢の海産物、料理を持ち寄って、本気で勝負をする。

決着をつける。ワクワクしませんか？しかも、そのグランプリを、ここ長崎が提唱して開催することに、大きな意義があると思います。それによって、水産の街として認知が高まり、さらにはその中でリーダーシップが発揮され、国内において大きな存在感が示せると思います。

つまり、それによって、長崎の海産物は凄いのだ、ということが自然な形で、より効果的に PR できるのではないのでしょうか。

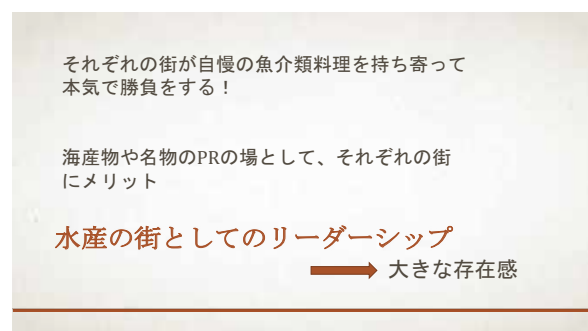
まずは長崎県内の自治体に呼び掛けて、長崎県大会を開催することから始めてみてはいかがでしょうか。戸石のふぐ、小長井のカキなど一同に会して、大いにその熱戦に舌鼓を打ちましょう！

さらには、この G―1 によって、参加したそれぞれの街に、そして何より長崎に、「誇り」のようなものが齎されるのが期待したいと、私は願っています。

○まとめ

世界に誇る長崎の魚で、唯一無二の食のテーマパークをここ長崎に創る。

長崎人ならワクワクと胸が躍りませんか？ その胸躍る感覚こそが、今の長崎に不足しているものであり、それが長崎に誇りと活気を齎してくれるものと私は信じています。



「先賢行列 長崎さるき」

活動報告書



長崎商工会議所青年部

平成 30 年度特別事業委員会

1. 「先賢行列 長崎さるき」活動報告書作成について
2. 「先賢行列 長崎さるき」とは
3. 「先賢行列 長崎さるき」の歌詞と振り付けへの思い
4. 「先賢行列 長崎さるき」活動年表、長崎 YEG 担当一覧
5. 「先賢行列 長崎さるき」に関するデータ
6. 「先賢行列 長崎さるき」の今後について



1. 「先賢行列 長崎さるき」活動報告書作成について

「先賢行列 長崎さるき」は毎年夏の一大イベントみなとまつりの打ち上げ花火の前に行なうダンス形式のイベントです。私たち長崎商工会議所青年部は、長崎港の開港に尽力した長崎甚左衛門等を顕彰する毎年4月27日の開港記念日の先賢顕彰式に参加すると共に、平成15年より山車を作成し浜の町アーケードや大波止港界隈でパレードを行ない、平成27年よりダンスの要素を取り入れ、審査員に長崎市長様、みなとまつり実行委員長様などの関係者の方々に採点頂くコンテスト形式として、みなとまつりの打ち上げ花火が上がる前の出島ワフ近辺の県道を利用し約1時間、参加者全員で「先賢行列 長崎さるき」を演舞してきました。

年々、参加者・参加団体ともに増加し近年では1,000名を超える参加者にて開催しております。

参加団体も多種多様で、小学校や高校・大学のダンス関係のサークルやダンススタジオ・YOSAKOI チーム等の団体、県内企業等々、市民参加型のイベントとして定着してきました。

私も平成29年度担当委員会の委員長として携わり、1,000名を超える参加者の方々が一同に出島ワフ前で演舞を目にした際に大きな感動を得ました。

この「先賢行列 長崎さるき」をもっと拡大し、長崎の夏を彩る一大イベントと発展させるために、これまでの歩みをご報告させていただきます。

平成30年度長崎商工会議所青年部 会長 中山大輔



昭和20年～30年代のみなとまつりの様子

2. 「先賢行列 長崎さるき」とは

「先賢行列 長崎さるき」の創成期から現在までの流れについてご説明いたします。

去る平成 15 年、当時の長崎商工会議所青年部（以下、長崎 YEG という）メンバーが、「長崎をもっともっと盛り上げていくには何か新しいものを」という想いでアイデアを出し合い、様々なイベント・お祭りを調査した結果、大分県大分市で大分商工会議所青年部が中心となって毎年 8 月に開催されている「府内戦紙（ふないぱっちゃん）」を知るようになりました。このお祭りは 30 年以上続いており、市中心部の中央通りと国道 197 号線で開催され、平成 30 年度は参加団体 26 団体、総勢 6,000 人以上の踊り子と 20 基以上の山車で、「戦紙音頭」を踊り舞い、観客動員も 220,000 人とまさに市民参加型の夏の一大祭りとして定着し、地元企業や市民が挙って参加しています。



「出島先賢まつり」開始当初は、シーボルトや坂本龍馬ら長崎にゆかりのある人物、長崎開港に尽力した先賢達をデザインした山車を 16 基作成し、そろいの法被で浜の町から長崎港までパレードを行いました。港の大切さ、先賢達の功績を認識してもらうため、当時のメンバーや他青年団体、小学生らの参加でこのイベントも盛り上がりを見せました。

その後、パレードの場所は夢彩都横おくち広場から水辺の森公園までの行程と変化していきますが、地元企業の参加や、平成 22 年頃には「龍馬伝」などによる幕末ブームも後押しし、「先賢行列 長崎さるき 幕末パレード」として、パレード参加者が大幅に増えました。しかし、山車の老朽化や単にパレードをするより、もっと市民誰もが参加できる市民参加型のイベントにしたいという想いから、平成 27 年よりダンスコンテスト要素を取り入れ、市民が楽しめるようにと進化を続け今日に至っております。

年々、参加団体、参加者も増加しており、リピーターだけでなく、新規参加団体も順調に増えており、審査形式となった 4 回目の平成 30 年度は残念ながら台風の影響で中止となってしまいましたが、過去最高の 51 団体、1,150 名が県立美術館から出島ワークまでを演舞する予定でした。

長崎がもっと元気になるように、そして日本がもっともっと元気になるように、私たちができることは微力ですが市民の皆さまの力をお借りしてこのイベントを拡大していきたいと思っております。



3. 「先賢行列 長崎さるき」の歌詞と振り付けへの思い

「先賢行列 長崎さるき」の音楽は当初、地元企業に依頼して作成しましたが、その後踊りやすくアレンジし、振り付けも歌詞の内容に合うように振り付けてもらい、誰でも親しみをもって踊れるように作られています。

〈歌詞〉平成27年に変更

鶴の港の長崎で 和華蘭街は さるこうで
さるこうで さるこうで 先賢担いで さるこうで

オランダ坂できゃーぶって 出島 丸山 眼鏡橋
さるこうで さるこうで 先賢担いで さるこうで

さるこうで のぼすうで さるこうで のぼすうで
ヨイヤヨイヤと さるこうで だいでんかんでん さるこうで

稲佐の山から見渡せば ひかり溢るる 坂の街
さるこうで さるこうで 先賢担いで さるこうで

さるこうで のぼすうで さるこうで のぼすうで
ヨイヤヨイヤと さるこうで だいでんかんでん さるこうで

異国情緒な港町 空にはためく 喧嘩風
さるこうで さるこうで 先賢担いで さるこうで

さるこうで のぼすうで さるこうで のぼすうで
ヨイヤヨイヤと さるこうで だいでんかんでん さるこうで

さるこうでヨイショ さるこうでヨイショ
さるこうでヨイショ さるこうでヨイショ

だいでんかんでん さるこうで



長崎にゆかりのある場所や物を取り入れており、非常に馴染みやすい「ことば」を使用しています。
振り付けについても、めがね橋やハタ揚げ、夜景をイメージした振り付けを取り入れ、覚えやすく誰もが踊れるように工夫し

ています。

4.「先賢行列 長崎さるき」活動年表、長崎 YEG 担当一覧

活動年表

年度	主な活動
平成 15 年	先賢達の山車を 16 基作成 浜町付近から長崎港までパレード その後、おくんち広場から水辺の森公園パレード
平成 23 年	幕末パレード 市民参加型ステージイベント ゆるキャラパレードなど
平成 24 年～	長崎甚左衛門山車パレード ゆるキャラパレード ステージ演舞など
平成 27 年～	市民参加型「先賢行列 長崎さるき」として、 コンテスト形式スタート

「先賢行列 長崎さるき」長崎 YEG 担当正副、委員長（過去 5 ヶ年）

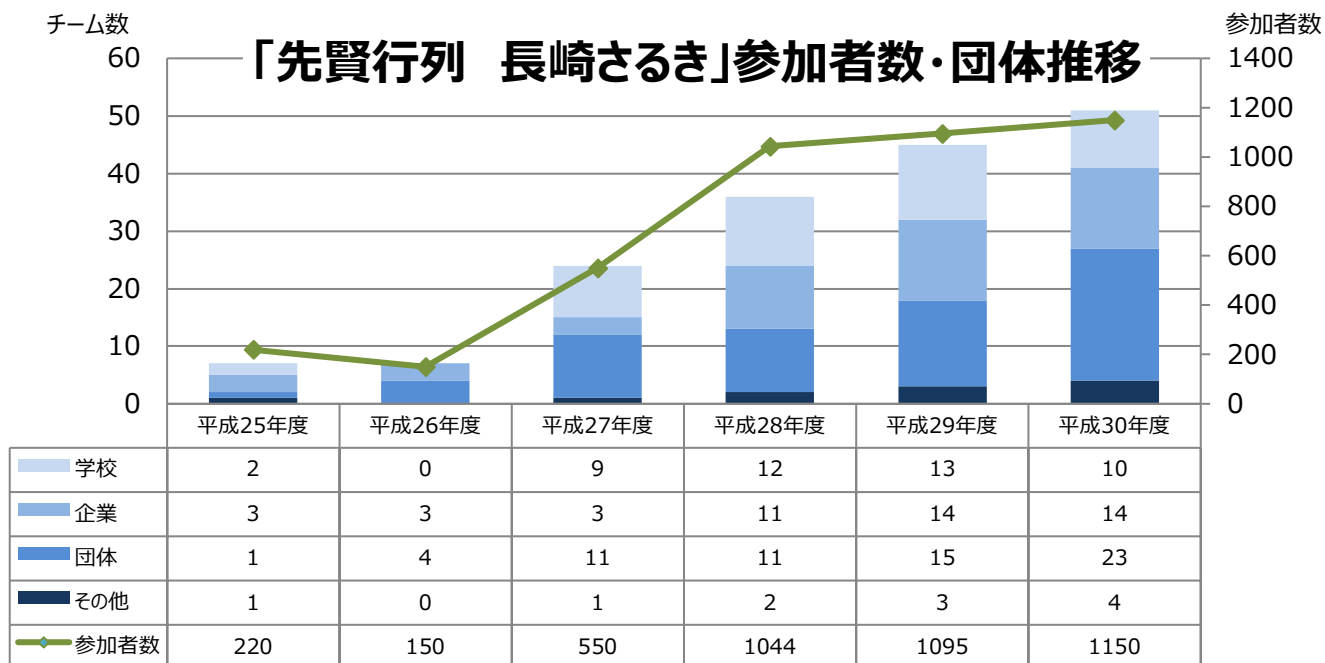
年度	会長	担当副会長	委員会名	委員長
平成 25 年度 (2013 年)	井口 潤一郎	後田 秀幸	みなとまつり	松本 辰之介
平成 26 年度 (2014 年)	大田 光敏	平野 幸一郎	特別事業	中村 繁
平成 27 年度 (2015 年)	藤本 陽一郎	井口 潤一郎	特別事業	村岡 潤一
平成 28 年度 (2016 年)	平野 幸一郎	後田 秀幸	特別事業	松本 辰之介
平成 29 年度 (2017 年)	後田 秀幸	中村 大郎	地域振興	中山 大輔
平成 30 年度 (2018 年)	中山 大輔	小森 紀之	特別事業	米濱 誠二

5. 「先賢行列 長崎さるき」に関するデータ

「先賢行列 長崎さるき」の参加者・団体推移を表としたものです。

平成27年にダンスコンテストを取り入れ、歌詞の変更等、内容を刷新して、広く市民参加型にしたことで参加者が飛躍的に伸びており、ますますの盛り上がりを期待できるコンテンツに成長する可能性があります。

コンテスト形式を導入し実施されてからの3年間の優勝チームは企業チーム、学校サークルチーム、ダンスチームとそれぞれの特色を活かしたダンスで優勝をしています。



優勝チーム一覧

年度	優勝チーム
平成 27 年度	ディーエスブランド
平成 28 年度	長崎大学 FREE STYLE
平成 29 年度	Win g with K

※平成30年度は台風によりみなとまつり中止



平成 27 年度 優勝チーム
ディーエスブランド



平成 28 年度 優勝チーム
長崎大学 FREE STYLE



平成 29 年度 優勝チーム
Win g with K

6.「先賢行列 長崎さるき」の今後について

長崎 YEG では「先賢行列 長崎さるき」を今後さらに発展させ、諫早市の「のんこ踊り」や大分市の「府内戦紙」のように多くの市民から親しまれるものにしたいと考え、特別事業委員会でアイデアを出し合いました。

- (1) 小さいころから「先賢行列 長崎さるき」の裾野を広げるために市内の小中学校へ、音源、お手本動画を配布し、道徳、体育の時間に親んでもらい運動会等で披露してもらう
- (2) 長崎市長、長崎市職員の方に積極的に参加してもらい認知度を広める
- (3) 長崎市、長崎県に後援をいただき、行政関連施設に広報ポスターの掲示をお願いしたい
- (4) 近年では参加者が1,000名を超えるため（平成30年は1,150名）、現在の場所ではこれ以上の参加者での演舞はキャパシティ的に難しいため、長崎県美術館前や水辺の森公園など、現在未使用のみなとまつり会場を有効活用し運営したい

「先賢行列 長崎さるき」報告書作成メンバー

平成30年長崎商工会議所青年部会長	中山 大輔
特別事業担当副会長	小森 紀之
特別事業委員会	委員長 米濱 誠二 副委員長 黒田 卓、田中 亮司、辻 竜太、平野 幸雄 委員 今村 祐也、梅本 大士、浦川 秀夫、江嶋 隆幸、岡東 健一、小畑 雄一、上戸 勝、草野 一康、小林 正裕、小山 健太、蔡 喜壮、柴原 啓一郎、園田 大智、高橋 佳子、出口 貴也、沼田 憲雅、野口 拓弥、橋本 祥宏、林田 政成、早瀬 大二、日野 裕之、平井 聡、平野 修、松本 泰輔、山口 絵理、山下 顕伸、山下 健介、山本 堅太郎、山本 真矢、吉岡 愛子、渡邊 一平、渡部 佳代
事務局	木下 太郎、小中野 真佑佳

おわりに

日本の総人口に占める高齢者の割合は、平成 30 年に 28% を超え、人口減少や高齢化などの社会構造の変化は新たな元号の時代とともに加速していくようです。ここ長崎においてはより深刻で、これから私たちや前世代が経験していない激動の時代に突入します。今まで当たり前 enjoyed できていたことは同じように享受できる時代ではなくなるようです。

とはいえ、様々な困難があっても大志を抱き、未来に向かって明るい展望を掲げて能動的に活動をし続けるのが青年部の役割です。いつの時代も青年たちが力を結集し、あらゆる困難を乗り越えてきました。

力の源は、同じ夢を語り、行動ができる仲間です。

青年部が平成 24 年に提言活動を始めて、今年で 6 年目になります。

これまで長崎市長をはじめ、関係する皆さまには、我々の小さい力ではなし得ないこと、まさにドリームプランの「青年部の提言」をしっかりと受け止めていただきました。

青年たちの情熱は少々暑苦しく思われるかもしれませんが、

— 100 年後も住みたい、訪れたい長崎 — の実現に向けて、業界の垣根をこえ、団体や委員会の垣根をこえて、当会は今後も力強く歩みを進めてまいります。

どうか今後もそんな長崎 YEG を温かく見守り、お導きいただけると嬉しく思います。

そして、時には手を取り合い、力を合わせて、次代の長崎をつくっていきましょう。

結びになりますが、平素よりまたこの提言をまとめるにあたり、本当に多くの皆さまにお力をお貸しいただきました。この場をお借りして心より感謝を申し上げます。

平成 30 年度 地域政策担当副会長 塚島温子